秘匿ノウハウ

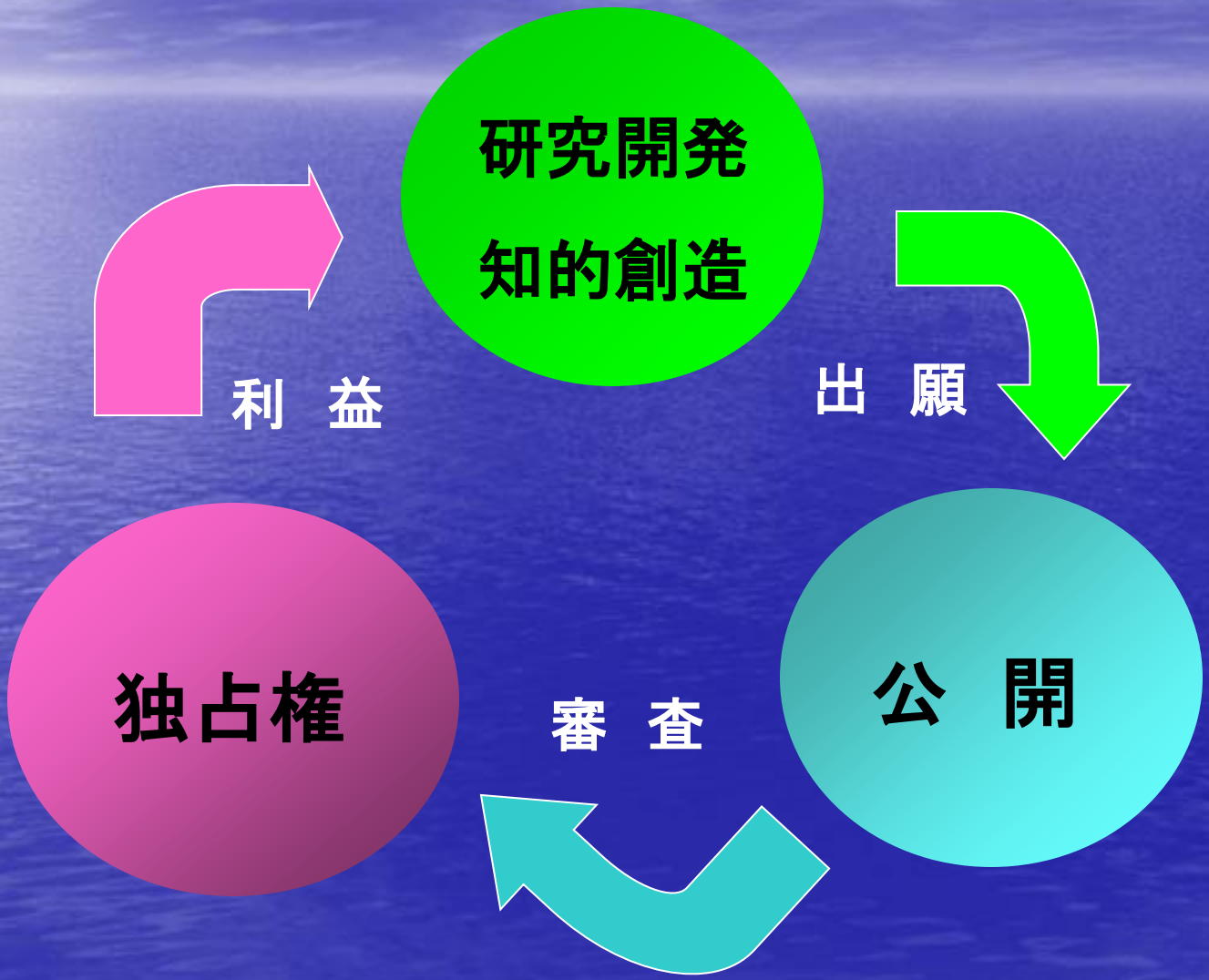
独占権ー先使用権

2012. 08. 30

岩瀬　一洋

- 技術の知的財産獲得
- 戦略的出願管理
- 秘匿ノウハウの選択
- 秘匿ノウハウの公知化
- 先使用権
- 先使用権確保のプロセス
- 秘匿ノウハウの管理

特許制度･先願主義



戦略的な出願管理 秘匿ノウハウの位置付け

技　　術

秘匿ノウハウ→自動的／公知まで

特許出願　→権利化／期間あり

営業秘密管理

海外出願

公　開

先使用権の証拠確保
・各種関係書類の保存
・確定日付

審査請求

先使用による
通常実施権確保
・自己実施が可能

特　許　権　獲　得
・自己実施が可能
・他社の実施を制限

特許出願と秘匿ノウハウの選択性

☆　他社技術の侵害発見可能性

物：最終製品として外に出て行くもの→特許出願

配合品（配合成分、配合割合、微量成分）

→最終製品では分析できない物

→秘匿ノウハウ

物の製法：相手の侵害を見つけにくい→秘匿ノウハウ

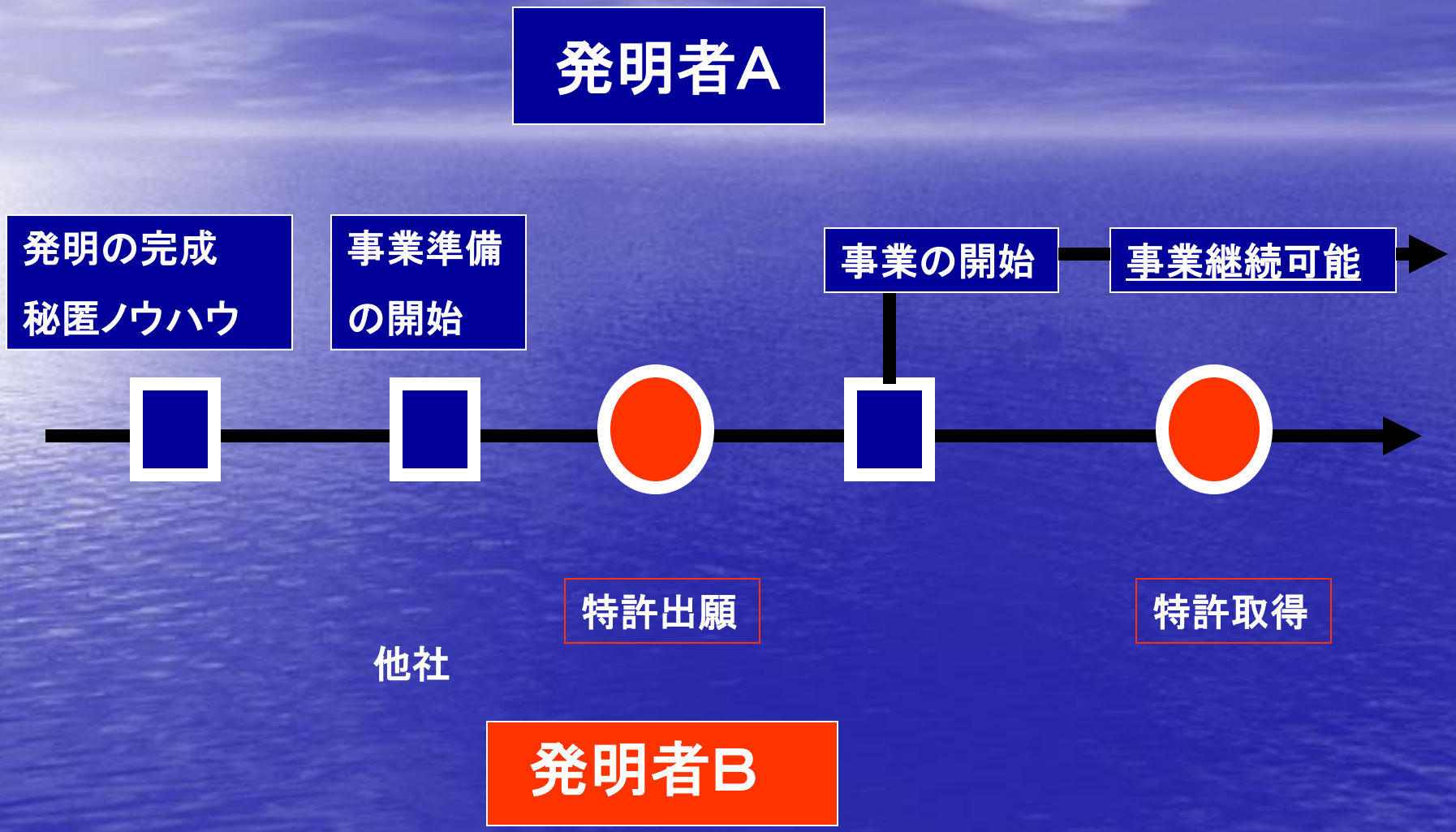
操業方法（手順）、製造条件（温度・時間）、

製造設備（装置、形状）

☆　他社技術の到達困難性

他社の技術力から判断して到達困難→秘匿ノウハウ

他社が特許出願、秘匿ノウハウは？



第７９条　先使用による通常実施権

①特許出願に係る発明の内容を知らないで自らその発明をし、又は特許出願に係る発明の内容を知らないでその発明をした者から知得して、

②特許出願の際現に

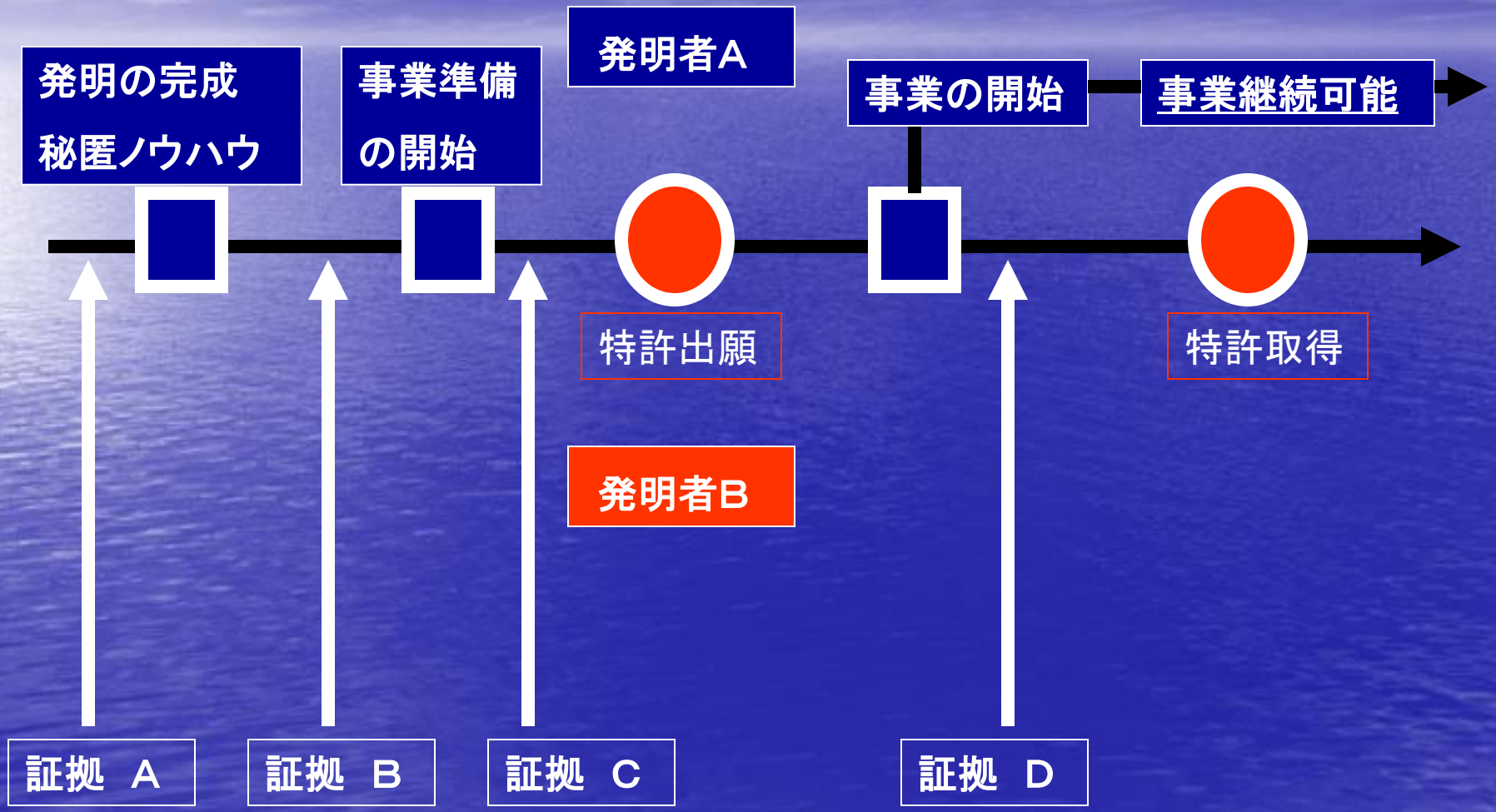
③日本国内において

④その発明の実施である事業をしている者又はその事業の準備をしている者は、

⑤その実施又は準備をしている発明及び事業の目的の範囲内において、

⑥その特許出願に係る特許権について通常実施権を有する。

先使用権確保のプロセス

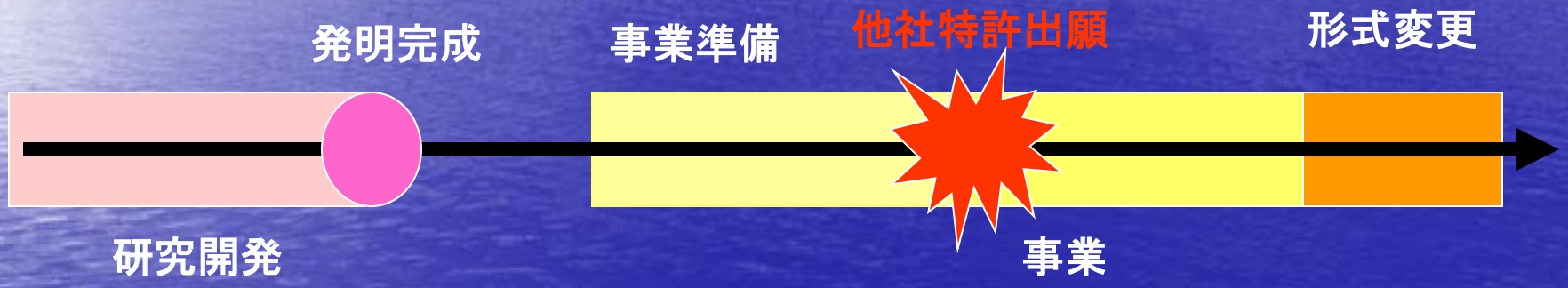


秘匿ノウハウ＝先使用権　証拠の確保の資料

・研究報告書
・技術報告書
・特許出願申請書
・明細書案等

・事業計画書
・試作品連絡表等
・契約書・見積書
・帳簿類

・作業日誌
・カタログ
・商品取扱説明書
・ラベル
・サンプル・製品自体



・研究ノート・月報
・技術報告書
・研究報告書
・共同研究契約書

・事業開始決定書　・請求書
・納品書・受注書　・作業日誌
・カタログ・商品取扱説明書・ラベル
・サンプル・製品自体　・MSDS

証拠を確保する契機（タイミング）

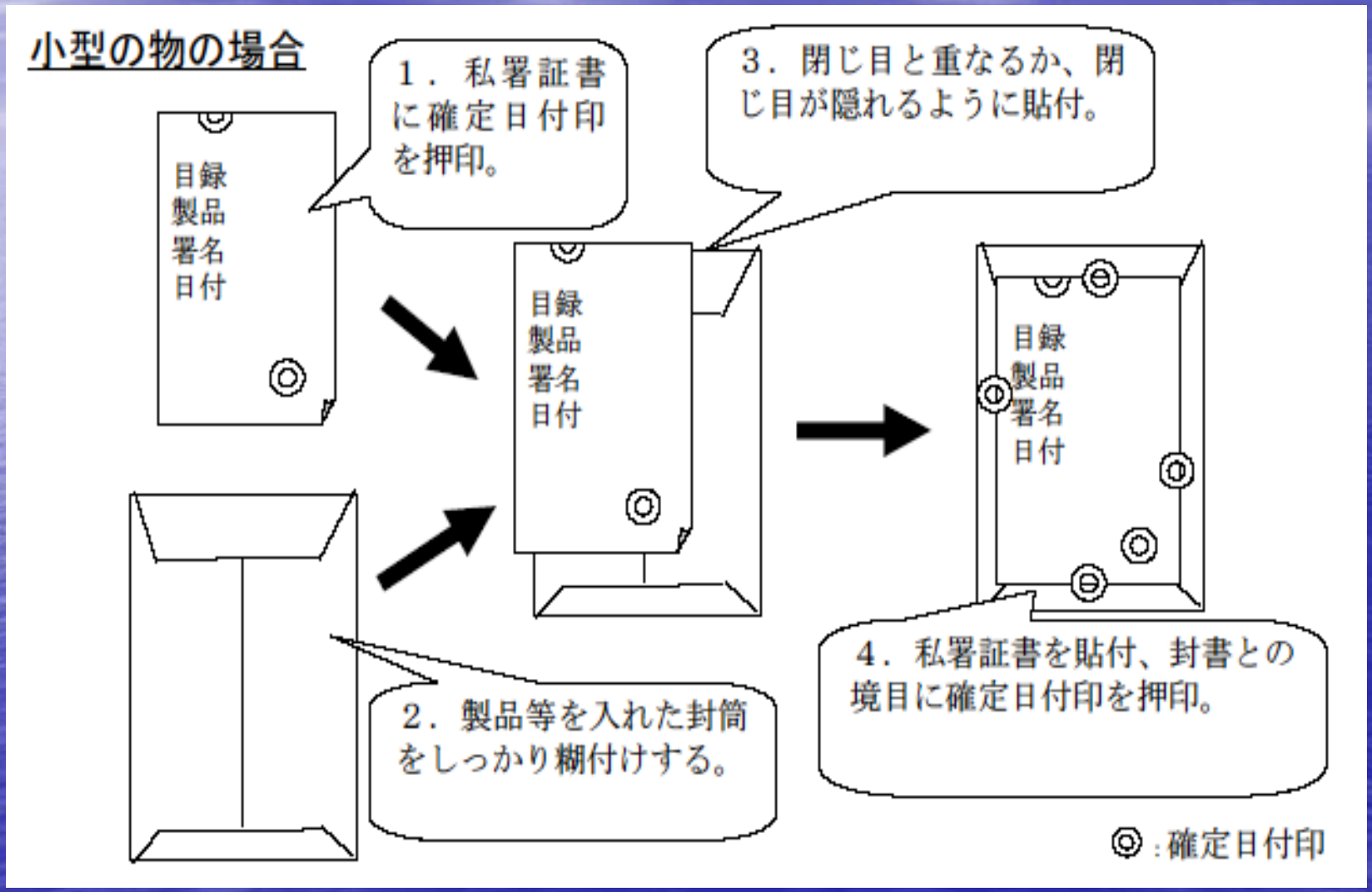
1．日常的に作成される資料から証拠を確保する契機
　（1）研究開発段階
　（2）発明の完成段階
　（3）事業化に向けた準備が決定された段階
　（4）事業の準備の段階
　（5）事業の開始及び事業を継続している段階
　（6）実施形式などの変更の段階
2．他社の特許出願や特許権の存在を知った時
3．取引先との取引を行う時

証拠力を高める手法～公証制度①～

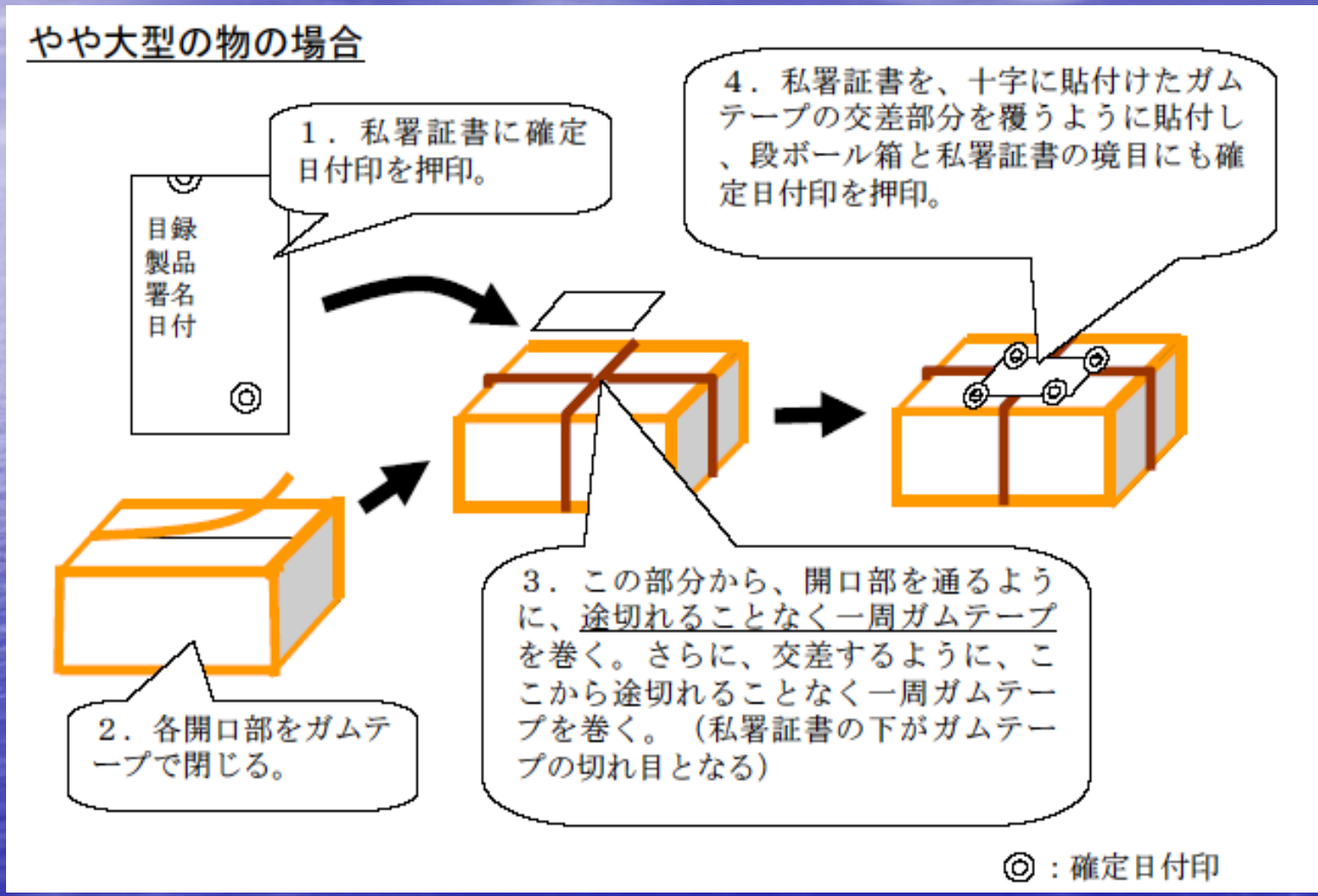
1. 確定日付
2. 事実実験公正証書
3. 契約等の公正証書
4. 私署証書の認証
5. 宣誓認証
6. 電子公証制度

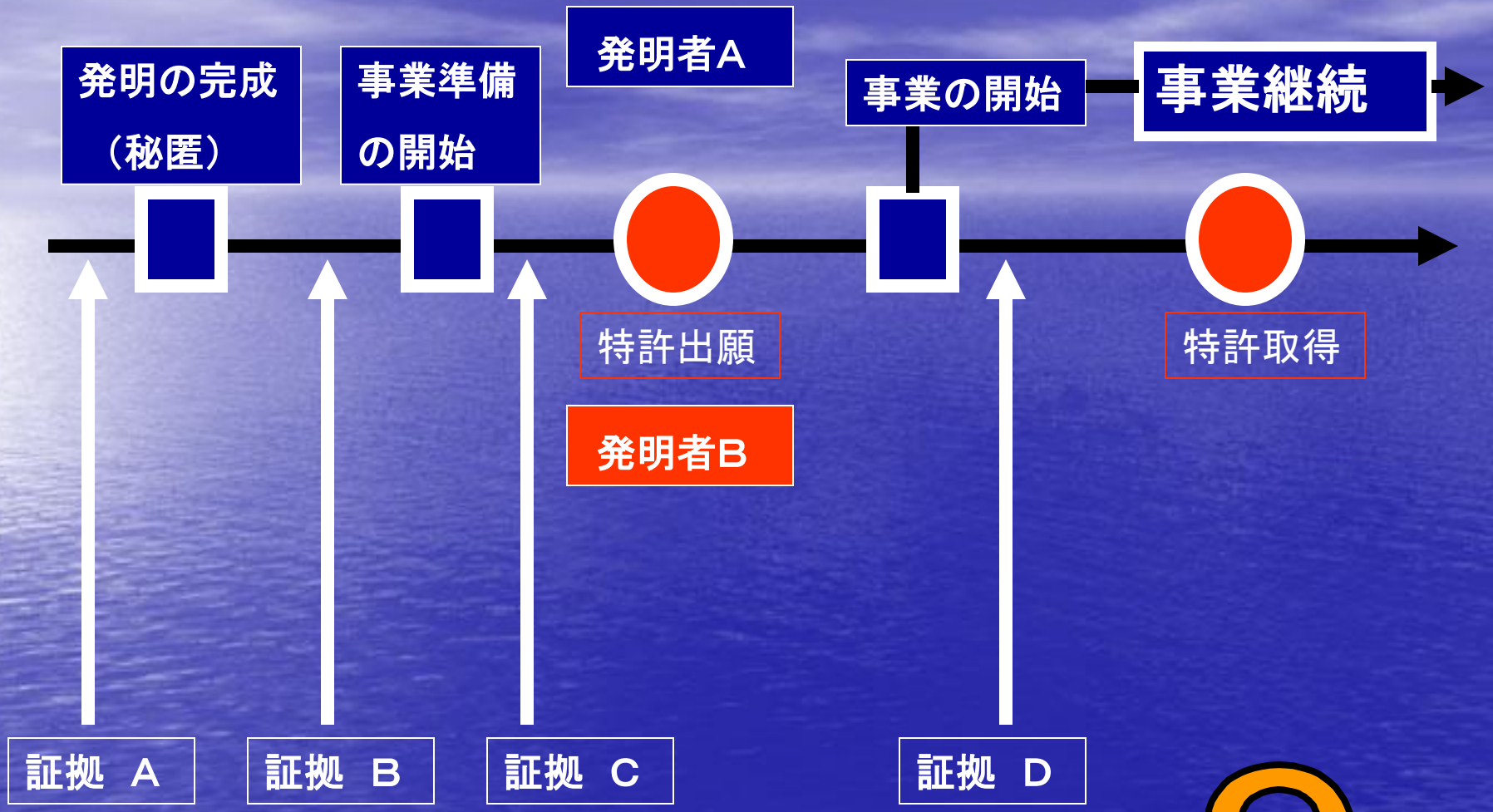
証拠力を高める手法～公証制度②～

秘匿したノウハウが少なからず化体している製品等については、その物自体を残すことも有効



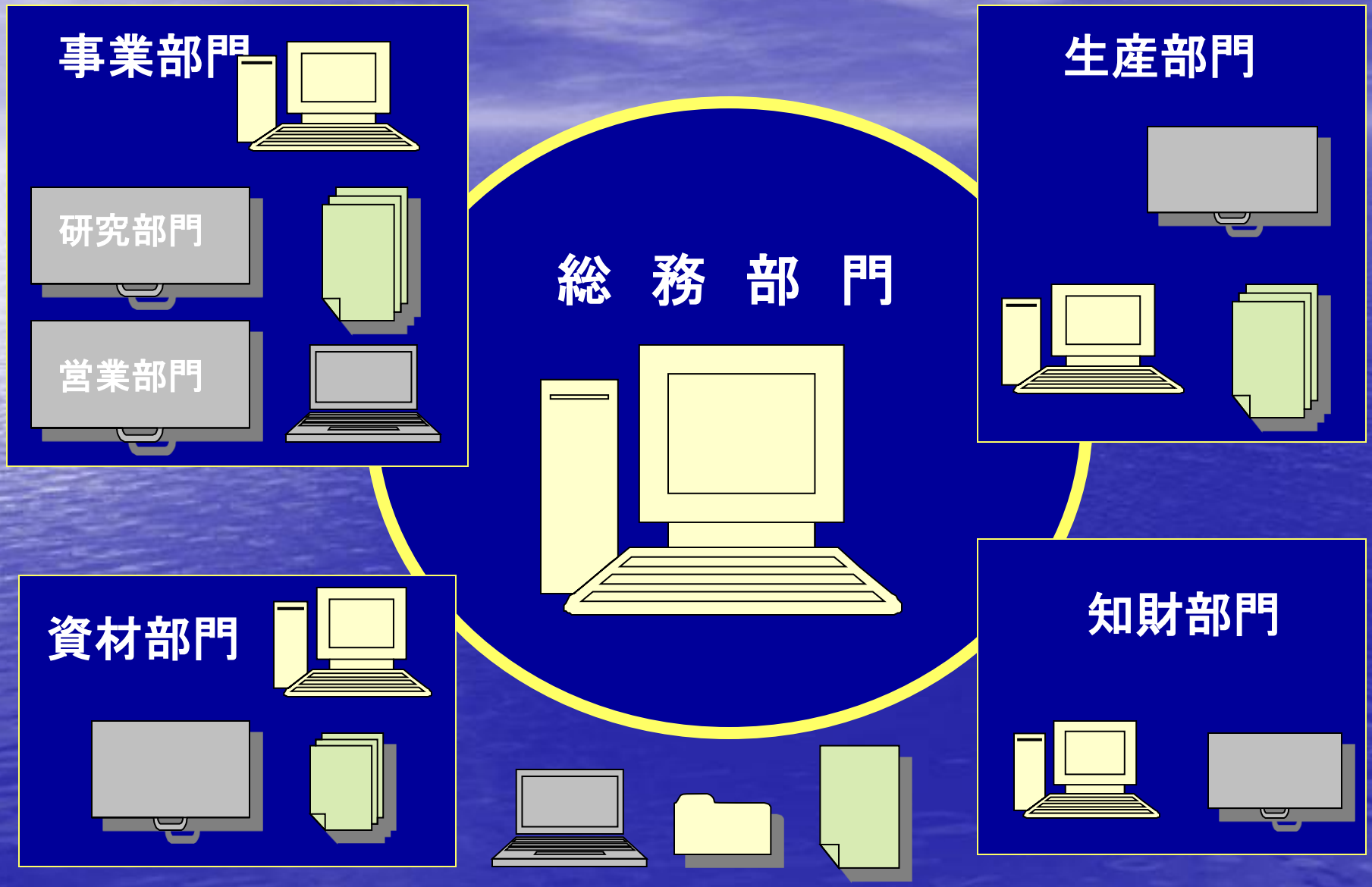
証拠力を高める手法～公証制度③～



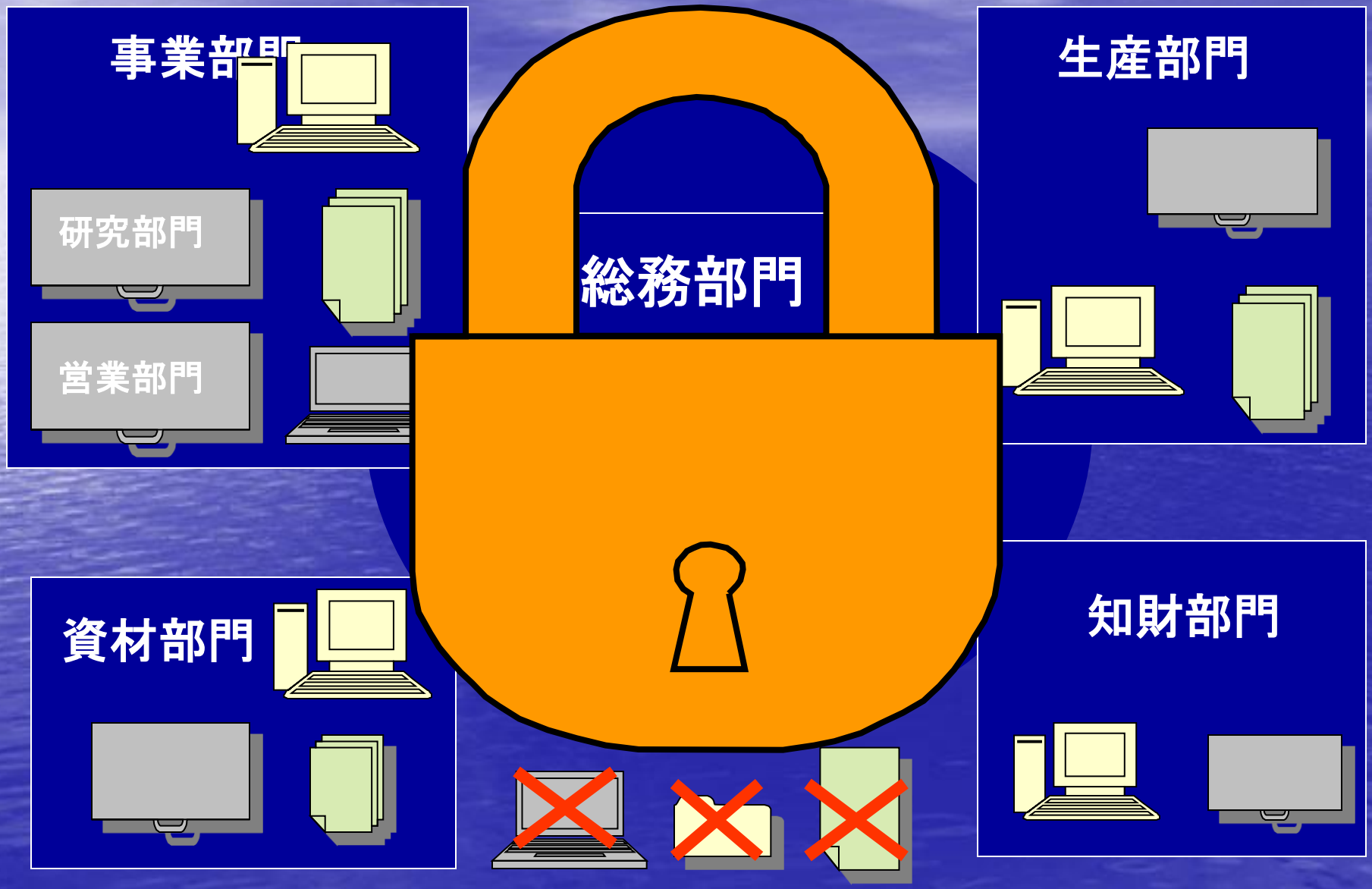


→　証拠となる秘密資料の管理

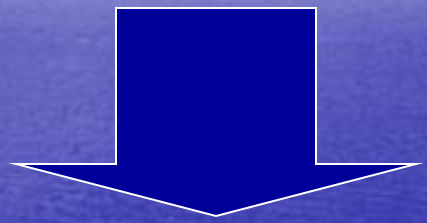
秘匿ノウハウ→秘密資料の管理



秘匿ノウハウ→秘密資料の管理



技　術



秘匿ノウハウの特定